なかさと

毎月一回15日
定価1部5円
発行所
中里村公民館
現在人口
男 4,305
女 4,437
計 8,742
世帯数 1,691

—段丘地開発—

三三九町歩の開田計画

清津川右岸段丘地総合開拓パイロット事業として

農業構造改善事業のの指定とともに、中里村農業の飛躍的な発展をめざして懸案の大事業である段丘地開発の計画（清津川右岸段丘地総合開拓パイロット事業）がいよいよ具体化される段階をむかえた。

　この事業の計画構想については、すでに公民館報六月号に掲載されたところであるが、枯梗原土地改良区用水路の東田尻頭首工を改造し、同水路を利用して段丘地分一・二立方米/秒の水を取入れ、程島地内で分水し市之越原まで直高一六七米をポンプ揚水して、これを東田沢まで、二、四〇〇米の距離を送水する。この灌漑水によって新たに開出される面積一三六・七町歩、土地改良（畑から水田化及び用水補給）される面積二〇三・一町歩、合計三三九・八町歩の開出がなされ、米の増収高八、〇六七石が見込まれている。このほか地区外道路として通り山、朴木沢、白羽毛から段丘地へ通ずる道路三、九三九米を開設する。事業は県営事業として施行し、総事業費は七億一千七百万円と予定され、昭和四十一年若しくは四十二年から着工する。事業完了までには五～六年ぐらいかかると予想されている。この事業が完了したあかつき将来の農業計画としては水稲を基幹として地域専業農家一戸平均水田一・五町歩の経営規模を目標とし、耕作は全て機械化して中型トラクター、コンバイン、ライスセンター等の設備をなし農協が経営する。除草や病虫害防除等は部落単位の協業化を目ざしている。

　この段丘地開発の計画が今日にいたるまでの歴史的な経過及び諸事情により紆余曲折のあったことは、宮野原氏（如来寺）が本紙に数回にわたって寄稿した〝回想清津川総合開発〟で語っているが、当間山麓一帯の段丘地に清津川を導水したいという着想は古く天保年間の昔からあったといわれ、この事業の有利性については大正時代より各方面から認められながらも莫大な資金と高度な技術を必要とする関係上具体化されず、昭和十七年に至って戦時下における食糧増産のため農地開発営団によって地域一帯の開発がおこなわれたが、当時の諸情勢下では清津川の水を利用するにいたらず、このため地区の大部分は開畑にとどまり半分は山林原野のまゝ放置されてきたのである。

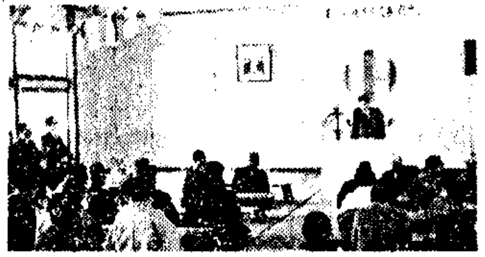
　現在すすめられている計画は農業近代化をめざすいわゆる農業構造改善に連なる事業として国県に於いても本腰を入れているだけにこの機をとらえて、まさに多年の宿願である大事業をなんとしても実現させたいものである。すでに関係[illegible]では本事業についての説明会が開かれ地区内未墾地の開拓、清津川に関係する水利権など土地水利などに係る権利調整がおこなわれつつあるが、この大事業が実施されることにより農業村として中里村の発展が大きく期待されるだけに、是非成就させるため関係地区民はもとより全村民からも一層理解と関心を深めて計画推進に協力していただきたい。

健康家庭表彰!!

被表彰者四十一世帯

　私たちの健康をまもる〝医療保障〟は、村民のみなさんひとりひとりのにない手として進んでおります。健康にすごすということは人間だれもがのぞむところであって、いくら金銭的に恵まれていても、体が弱くては幸福な家庭を築き、明るい生活をおくることはできないからです。

　村では、去る十二月五日午前十時から児童館で、村内健康家庭表彰式を行ないました。この健康家庭の表彰は昨年につづいて第二回になりますが、被表彰家庭につきましては、診療報酬請求明細書を基にして、保険税の納付状況や、結核検診受診状況などを調査の上、決定いたしたわけです。今年度の被表彰者は昭和三十七年十月一日から三十九年九月三十日までの二年間に、医師に一〇〇点以下しか、かゝらなかった二人家族以上の世帯を対象にしました。二ヵ年間一日も医師にかからなかった世帯は十三世帯。一〇〇点以下の世帯は二十八世帯で、この日四十一世帯の健康家庭が表彰され、記念品が贈られました。



【写真は健康家庭表彰式】

高橋村長退院

温泉療養に入る

　かねて十日町病院に高血圧症で入院加療につとめていた村長は、去る十一月二十六日症状軽快歩行可能の状態となり、他に内科的機能障害がみられないということで主治医の指示により、退院、しばらく温泉療養所に入所した

入所にあたって村長は

「このたびの私の病気について村民のみなさんからよせられた御厚情については感謝のほかありません、幸い経過も良好でほかにどこも悪くないから温泉療養がよいとの主治医の指示により、しばらく温泉療養させてもらいますが、この上は一層療養につとめ快復を図り一生懸命勤めたいので、村民のみなさんによろしくお願いしたい。」と語り、主治医の瀬川先生は「症状軽快歩行可能の状態となり、上肢に軽度の運動障害を残す程度までに、改善、他は内科的に心、腎、肝臓等に機能障害はみられず、糖尿病の傾向もないので、これからは積極的に左上下肢の機能快復のため、鹿教湯温泉療養所に入所をすすめた」と言っている。

世帯員七割給付実施について

　昭和四十年一月一日より国民健康保険世帯員の七割給付が実施されることは、皆さんすでに御承知のことと存じますが、これに伴い保険証を訂正しなければなりませんので、この事務を十八日より二十五日（貝野、倉俣地区は十八日一日限り支所において）まで行なうことにしております。ついては、区長さんから部落内の保険証をあつめて役場にもってきてもらうよう考えていますので、指定された日に役場国保係へ提出し訂正を受けられますようご協力下さい。

　尚、現在使用中で病院等に出ている家庭では、すみやかに取りよせて訂正を受けられるよう手配下さい。

年賀交換会のお知らせ

◎日時　四十年一月二日、午前十時～正午まで
◎会場　田沢小学校
◎会費　一人二百円

慌・哀惜の師走

齋藤大馨

　泣いても笑っても、あと僅かで正月を迎えねばならない。全くあわただしい師走で、一年毎にその度が増して来るような気がする。これも年のせいであろうか。一歩街頭へ出ると[illegible]の大売出しで、追ッ立てられているような気がする。はなやかな師走といいたいが、その裡には過ぎゆく時への愛惜で、一沫の淋しさ哀しさがある。今年はまた思いがけぬ初雪が急に地上を染めて、何時ものことながらあわてさせられている。毎年暮になると動中静で親しかった友達や近親者を想い出して、ふかい追憶の情にかられる。年々歳々人同じからずの感慨が、ひしひしと胸に迫ってくる。

　師走の語源はハッキリしないが法師が年末のお経廻りで、走り回っているさまから、思いついたことかもしれない。それとも師は師匠の意味で、今でいう先生のことかも知れない。この方々が進学、就職にと児童、生徒のために各々の場を開拓さるべく走り回わる意味なのか。

　この頃新潟へ所用のため出かけデパートをのぞいて見たがその繁昌振りはまことに眼をみはるものがある。売場へ行くと、お歳暮の贈り物を買う人の群がひしめいて長蛇の行列を作っている。ある書いた物で見たのだが、一日一億円以上も、売上げのあるデパートがあるらしい。消費革命の進むとともに、ますますこういう状況はひどくなってゆくだろう。ゆく先々を考えると空おそろしい。これも時の動きで、抑えることはできないかもしれない。でもいかに消費ブームとは言え、この辺で入るを知って出るを計る心の持ち方の訓えをかみしめたいもの。

　東京時代知りあいの夫人が、毎日のようにデパートへ出かけてゆく。大したものも買わないのに、見て歩くだけで、愉快な気持になるという。これなどは一種独特な婦人心理というべきではなかろうか。ごめんなさいオイオイ消費病患者が出てこないかと心配になる。師走の時になると各商店の店頭に、綺麗なものゼイタクなものが、飾りたてられる。思わず手が出て万引を無意識にしてしまう人達がいる。

　潜在意識と、本能のはたらきだと思われる。人の所有権を尊重する気持ち、高い文化的教養がなかったら、とかく本能は頭発しやすい。こういう本能と無意識的誘惑に、多くの人々はかからないが、そこには道徳や教育で日頃教えられているからだ反対的抑制力が身についている証拠である。

　それにしても年末多忙のときに、何百枚もの年賀状を書くのはなかなかの苦労である。虚礼のような気もするが、またその半面、年に一度のあいさつを取りかわすことも、案外有意義なことかもしれない。ことしも習慣に従って相変らず年賀状を書くことにしている。

　実用主義で考えたら大した意味もない年賀状、それも多忙なときに義務的にやるのは馬鹿らしい気もする。だがこの機会に友達や近親、かってお世話になった人々を思い出すのもよかろうし、又新年になってトソ気分で一枚々々の賀状を手にするあのほのぼのとした気持ちは捨て難い。

　年末の哀惜を殊のほか強く感ずるのは、何といっても大晦日の晩に、除夜の鐘をテレビやラジオで聞くときである。あの鈍い深夜の鐘声のなかに、人生の無常流転を、まざまざと感じさせられる。

　人生の全部があの鐘声にこもっているようだ。いわば永遠の一瞬である。この一年にもいよいよ別れを告げるのだと思うと覆水盆に帰らずのことわりはよく判るのだが、タツゆく年に哀別離苦がひしひしと身にしみる今年の冬は寒波が厳しいとか、皆さん風邪など召されぬように自愛され希望多き巳の年を迎えらるゝよう祈念しつゝ筆をおく。

三十九年度 三才児 五才児 の虫歯の状況

　三十九年度三才児、一二六名の春、秋の虫歯検診の結果、現状のなかった者は三名、春一名秋一名でした。検診結果は左記のようです。

虫歯の本数	春	秋	計
一本を持っている人（二十本のうち）	三	二	五名
二本　〃	二	五	七名
十五本　〃	一	一	二名
十六本　〃	一	〇	一名

　一人当り平均八本という数字が出て、ます。しかし、虫歯の程度は始まったばかりの小さい虫歯が多くて、早期に治療すれば心配ないと思います。

　診査中特に気の付いた点を二三上げてみますと

①　食事後直ちに検査をしたためかも知れませんが、口の中特に歯と歯の間に食物のカスが残っている人が多く見られましたこれは虫歯になる重大な原因となりますので、口の中は常に清潔にしてあげて下さい。

②　家の子供には一本の虫歯もない筈なのに検査したら何本もあるといわれたと驚いたり、くやしがっているお母さんやおばあさん方が多数いましたが、虫歯は見える所だけに出来るものではありません。平素家の子に虫歯はないなどと安心しないで下さい。

　尚、今後特に気を付けて戴きたい点を申し上げます。

①　子どもに歯が生えたら小さな歯ブラシを与え、オモチャにしてもよいか[illegible]中をかき回させるなどしてブラシに親しみを持たせること

②　お菓子など食べた後は必ずうがいをさせるか歯をみがくかして、これを習慣づけるように指導して戴きたい。

③　歯も身体もりっぱな親から良い歯の子供が出来るものです歯には遺伝的な要素があるので妊婦の方は特に次のようなことに気を付けて下さい。

◎妊婦娠時には……

A歯の治療をして置くこと
B偏食を改めること
Cカルシューム、ビタミン等をかかさず取ること
D牛乳や卵はもちろん、日光浴も心がけましょう。そして新鮮な野菜や果物も充分に取るようにして下さい。

　尚、さる十一月二十六日に始めての五才児歯科検診を実施しましたが、其の検診の結果、受検者一〇二名中虫歯の全然なかった者は一人もおりませんでした。三十七年からの三才児検診の結果と、おばあちゃんやお母さんのこれからの育児の参考に供したいと思います。

◎三才児の虫歯一人平均
三十七年度　七・七本
三十八年度　七・六本
三十九年度　九・九五本

◎五才児虫歯一人平均
三十九年度　九・四六本

◎五才児の虫歯の内訳は次のとおりです。

総数九六五本（一〇二名）
一本＝〇、二本＝四人、三～五本＝十八、六～十本＝四十八人十一～十四本＝二十七人、十五～十七本＝七人、十八～十九本＝五人、二十本＝一人、まことに驚くべき虫歯です。頭の良くなる食事や栄養と考えるお母さんでも歯のことについてはほとんどが無頓着のようです。歯がぼろぼろでは身心共に健康な子どもとは云われません。消化器の第一関門が歯であることをもう一度お母さん方からじっくり考えていただきたいと思います又おばあさん方からもよろしくご協力いただきたいものです。

なかさと文芸

—俳句—

一声
落葉焚夕べの風がもち去りぬ
子にあまえ生薬一日だんろ燃ゆ
紫紅
物みなの形造りて雪を待つ
桂仙
石仏の衣綾なす紅時雨
士牛
貰い風呂湯冷めて白き冬の星
露丘
歴を継ぐ確かな歩幅霧氷哉

投稿お願い!!

　公民館報の原稿を募集しています。建設的なご意見や感想、文芸などを公民館あて投稿して下さい。

歳末たすけあい運動にご協力下さい

中里村社会福祉協議会

今年も早師走となり、何かと心忙しい毎日が続く今日この頃でございます。

この中にあって、我が国は世界で類を見ない経済の高度成長を遂げているといわれております。しかしながら、その反面何んらかの理由のもとに社会からとりのこされた生活困窮者が、数多く存在するのも現実の社会の姿であります。中里村においてもたとえば、生活保護法による保護を受けている者が、年間を通じ常時五十世帯から六十世帯もあり、病院に入院している人達が常に六十名、その他精薄施設、身体障害者施設に入所している人達も数多くおります。

これらの恵まれない人達が少しでも明るい年越ができるよう共同募金会、社会福祉協議会、民生委員協議会などの共催で、才末たすけあい運動を展開いたしております。皆様方の絶大なるご協力を切にお願い申し上げます。

歳末たすけあい無料診療

歳末たすけあい運動の一環として例年実施いたしております、「歳末無料診療」を十二月十四日より十九日まで上村病院にて行なっております。診療ご希望の方は国民健康保険証又は健康保険証と中里村社会福祉協議会（事務局社会厚生課）の発行する無料診療券を上村病院窓口に提出して下さい。無料診療券はこの期間役場にて発行いたしております。

北海道冷害に見舞

北海道全域にわたる冷害による大凶作は道内農家の七〇%、十五万五千戸が被害をうけ、そのうち三〇%は五分作以下というみじめな作柄で冬を迎え、不安な生活を続けられる方たちを思うとき、心から村民のみなさまと共に御同情申し上げたいと思います。

目下各種団体では、全国的に道内農家の救援と激励をする義捐金を募集いたしておりますが村の共同募金会ではとりあえず才末たすけあいの中から壱万円を贈ることにし道日赤支部に寄託しました。又、田沢中学校生徒会から米一俵の寄託を受け同時におくりました。

林先生の篤志

十日町市で皮膚科専門の医師として開業していられる林胎賢先生は、去る十一月二十一日本村母子大会の講師として招かれて来たが、そのとき村よりの謝礼をそのまゝ、「才末にあたって恵まれない人にせめて餅一切れでも差上げて下さい」と村共募に寄託して下さいました。

任意加入者は国民年金の加入を

国民年金法では、会社で働く厚生年金加入者や、国家公務員や地方公務員の公務員共済組合加入者、又は農協等で働く農林漁業団体職員共済加入者等は、法律的に国民年金加入を除外していますが、その配遇者は自分の意志で加入出来る任意加入の道が開かれています。国民年金は個人を単位とした年金ですので、任意加入した人は配遇者が受ける各種（厚生年金等）年金の老令年金とは別に、自分は国民年金における老令年金を受けることになります。従って、国民年金に加入した人は六五才になれば、夫は厚生年金を妻は国民年金を受けて二人して年金生活を楽しめるということになる訳です。

今の日本の年金制度の状況からして一人だけの年金では、他の家族の生活まで面当みることは非常に困難であります。このような点を考え合せてみると、任意加入出来る人は是非とも加入して、将来の生活設計に役立てていただきたいと考える次第です。又、六十五才になるまでには予想しなかった災難に出合うことでしょう。とえば、大黒柱と頼んできた夫の死亡、あるいは交通事故等による障害、このような場合には、もちろん母子年金、障害年金を受給できることは当然である。任意加入者の場合夫が死亡した場合には、夫が加入していた年金からは遺族年金と自分の加入していた国民年金からは母子年金を、両方から年金を受けられることになります。ただ国民年金法では、任意加入者は強制加入者と異って保険料免除の方法がないことと、滞納して督促状が送付され指定期限までに納付しないときは資格が喪失するので、納付については滞納しないよう特に注意して下さい。

母子衛生大会行なわる

第四回中里村母子大会が、去る十一月二十一日午前十時より中里村児童館において村内の婦人会代表者やお母さん方が六十余名集って開かれました。

大会は村長代理広田収入役さんの「母子衛生の問題は先づ健全な人づくりが基礎で、今後一層力を入れていただきたい」との挨拶にはじまり、優良三才児清水雅秀さん（山崎）南雲佐知子ちゃん（堀之内）外十八名、優良乳幼児樋口隆司ちゃん（新屋敷）阿部圭子ちゃん（千溝）外十八名、虫歯皆無で広田有海ちゃん（山崎）外二名、未熟児保育努力賞として大島イセノさん（倉俣）外三名、母子組織育成功労者としてすみれ愛育会鈴木キイ（重地）むつみ愛育会羽鳥タマノ（新屋敷）稔愛育会川之井カウ（小原）……がそれぞれ表彰され、又、十日町保健所長さんをはじめ来賓各位から祝辞が述べられ、午後からは十日町市桂珠医院院長さんの特別講演をきき、午後三時過ぎ盛会のうちに散会した。

母子組織の修了式

この修了式を行なった母子組織は稔愛育会と称し小原、田中、千溝、峠の四部落よりなり昭和三十七年五月十日発足した。年十二回の体重測定をやる外、家族計画の勉強も年一度は行なっています。発足より二四ヵ月（満二才）の修了者が三一名ある内、出席率良好の者十二名に修了証書を授与しました。去る十一月二十一日母子大会の会場をかりて の始め ての修了式です。他のお母さん方を大変うらやましがらせました。尚、役員は毎回五名が出席し測定、記録指導をまことにスムースに行っています。出席率は非常によく皆んな真剣そのものです。

（保健婦）

一に学校二に学校

〃一に教会二に地域、三に家庭、四に学校〃これはアメリカやイギリスなどで、教育の場として大切なところを順に表わしていることばだそうです。

ところで日本だったらどうでしょうか。〃一に学校、二に学校、三にも学校……〃ということになりそうです。「日本と外国とではちがう」と言えばそれまでですが、青少年の非行問題や道徳性が論議されている昨今〃人間教育の場はけっして学校だけではない〃ということをおしえられないでしょうか。

「親は子の鏡」という諺があります。これは家庭教育の大切なことを言っているとおもいます。子どもの道徳教育、家庭教育をもっとしっかりやらなければならないことはもちろんですが、その前に〃子どもを育てる大人のあり方〃この点をまず考えてみたいものです。

☆ ☆ ☆

これからの家庭教育

— 親と子の関係 —

桑原芳太郎

科学技術のものすごい発達によって新しい機械がどんどん生産されると、人間が使うためにつくった機械に反対に人間が使われる傾向が強くなってきている。そして人と人とのふれ合いも用件的、部分的になり、人々はしだいにその人間性を喪失する。こうなってくると人々は人間性の回復を家庭に求め愛情を中心として家族が結びあい、自由な自己表現を通じて精神の安定を図る家庭に、自然の人間性を回復しようとする。

ところがその家庭がまた大きく変ってきている。すなわち衣食住の要求は家庭外で求めることができるし、子どもの養育も施設の普及によってだんだん外に委託することができるようになってきた。また家族がいろいろな職業につくことによって仕事や興味がばらばらになり、家庭は個人の幸福のために営まれる一つの生活の場にすぎないというような考えがでてきている。しかも最近の青少年の不良化犯罪増加の問題や高校進学率の上昇、就学前教育の拡大、学校における道徳教育の充実などに関連して子どもの教育のことを考えると、どうしても、家庭における教育の重要性を再認識し家庭教育への関心を高めなければならない。（中略）学校教育が普及しても性格形成のための家庭教育の使命は減らない。むしろ学校教育への過度の依存は反省されるべきだ。もし学校教育に知育偏重の傾向があれば家庭でこれを補うため生活指導や道徳教育に力を入れるべきだろう。かんじんなことは子どもの自発性、自律性を尊重しながら適切な援助を与えること。家庭の一員として子どもにいろいろな役割を引受けさせ責任感を育てることである。（中略）

子どもの人間形成に果す父母の役割は安定感を与えることである。そのためには夫婦はお互いに進んでほめ合って仲よくし家庭の中に明るいなごやかな雰囲気を醸成することが大切である。夫婦げんかばかりしているならば子どもは親に対する信頼を失って家庭に不安を感じ、ふらふらと外へ出て不良化の道に入っていく場合も多いのである。夫婦げんかに勝っても名誉でないし負けても恥辱でないから子どもがいる時にはどんな理由があってもがまんしなければならない。夫婦のあり方は二つのものが一つに同化してしまうというよりも、それぞれ異った二つの個性が対立しながらも一つの目的に協力していく活動にある。したがって夫婦の関係は静止した安定ではなく絶えず問題をはらみ、またそれを解決していく動的関係である。

第二は子どものしつけである。これは家庭が中心となっておこなわれるもので、いつも社会のつながりの上に立って考えられなければならない。子どものしつけというと、とかく行儀作法的のものが主に考えられる。しかしあまり行儀作法にこだわる事には問題がある。行儀作法は社会の一つの道徳的習慣である。したがってしつけの内容としては行儀作法の末端にこだわるよりも、まず行儀作法の基礎となる精神態度をしつけることが必要である。また一つの行動様式や思考態度にがみがみいうよりも自発性、創造性を獲うようなしつけが必要になってくる。幼い子がお母さんに甘えることは自然である。〃うるさいね、あっちへ行きなさい〃と突放しては愛情という大切な心の貯水池が干あがってしまう。甘えてくるときこそしつけのチャンスである。子どもが大きくなって自分の家はきちんときれいにしておくが、汽車の中や公園で平気で紙くずを捨てるようでは問題である。

第三は「お金に対する考え方」「働くことの意義」を知らず知らずの間に子どもに教えることである。消費生活の水準はどんどん上昇してあれも欲しいこれも欲しいと人間の欲望は限りなく増大していく。いったい人間は何のために働くのか。働くということは社会的に価値ある物の創造に人間が参加することである。そして働くことによってお金が得られるのであるからお金は尊いのであり、また大切に取扱わねばならないのである。親のお金に対する考え方や労働観はそのまま子どもにうつっていく。うちの子はお金が欲しいといえばいつも与えて不自由させないでいたのにどうして他人の物をぬすむんでしょうと涙を流してもそれはあとのまつりである（中略）。

親、子の関係は生んだ生まれた関係、ぬきさしならない結合だから尊いのでなく、どう育てどう育ったかということに親子の関係の尊厳が確立されるのである。しょせん子は親から離れて強くたくましく生きていくものである。この運命的な関係をたち切っていこうとする生活が家庭であるということもできるのではないか。

（県教育庁社会教育主事）

—県公民館月報より転載—

人生往来

◎産声

子のなまえ	父の名	住所
服部 道夫	和一	田沢
山本 弘	今朝一郎	小出
樋口 裕文	倉造	上山
上原 斉	代四男	通り山
吉楽サユリ	喜一	山崎
村山 玲子	之和	宮中
村山 浩透	清司	宮中
藤田 勇治	格平	宮中
吉楽 均	厳	宮中

◎高砂

	氏名	年令	住所
新郎	滝沢 金治	三〇	田中
新婦	山田ハツイ	二一	清田山
新郎	鈴木 良一	二八	芋川
新婦	樋口ミヨシ	二三	小原
新郎	上原 義房	五八	上山
新婦	富井チヨノ	四二	如来寺
新郎	吉楽 幸司	二六	上山
新婦	桑原 ヒデ	二三	田代
新郎	松井 岩雄	三二	荒屋
新婦	保坂ハルエ	二八	芋沢
新郎	本山 政平	三七	津南町
新婦	山本セツ子	三五	小出

◎昇天

氏名	年令	住所
村山 弘行	（一）	田沢
上原 クニ	（六〇）	通り山
鈴木 フデ	（七九）	重地
服部 ツナ	（八二）	小原
石沢 熊治	（七六）	上山
村山 玲子	（〇）	宮中

教員住宅完成

清津峡、田沢倉俣小に

このほど清津峡小、倉俣小、田沢小にそれぞれ一棟づつモダンな教員住宅が完成しました。

中里村にはまだ教員住宅が少なくて、各学校とも毎年異動期になると封してくる先生方の宿探しに一苦労していますが、村教育委員会としても教員住宅確保についてはなんとかしなければと骨を折ってきたもので、へき地学校教員住宅建設国庫補助事業で清津峡小に一棟、木造二階建十九・五坪百十万円（工事請負三商土木）公立学校共済組合教員住宅建設委託事業で田沢小に一棟、ブロック平屋建十五坪百二十五万円（工事請負徳永建設）同じく倉俣小に一棟、ブロック平屋建十五坪百二十四万五千円（工事請負中部建設）を建設したもので、これによって先生方の住宅難が一部解消されるわけですが、いい先生をむかえるためにも教員住宅を完備していきたいといっています。

【写真は完成した倉俣小教員住宅】

年末年始郵便貯金増強運動

十二月から一月末まで

郵便貯金は、ほかの資金とともに、大蔵省の資金運用部に集められたのち、それぞれの地方へ還元されて町や村の教育施設や、上下水道、道路、公営住宅病院の建設をはじめ農林漁業、災害復興資金など数多くの公共事業に融資されて、生活環境の向上と、郷土の繁栄のために活用されております。

新潟県下における融資額も二百四十八億円に及んでおり、また郵便貯金の現在高は三百七十一億円となっており融資割合は六六%になっています。これらの資金は長期にわたって貸付けられ、しかも低金利なので借入希望も年々[illegible]需要に応じき[illegible]どうしても[illegible]ねばならず[illegible]郵便貯金の増強を呼びかけている次第です。

十二月から一月末まで〃年末年始郵便貯金増強運動〃を全国的に展開していますのでご協力をお願い申し上げます。